

洞爺地区振興策検討委員会報告書提出

洞爺高
校跡地

子育て支援の拠点づくり



来年度に閉校する洞爺高校

洞爺高校の閉校に伴い、同校の跡地利用と洞爺地区の振興策を検討してきた洞爺地区振興策検討委員会（桑原 敏委員長）が、10月31日、最終報告書をまとめ、真屋敏春町長に提出しました。

報告書では、今後の方向性について、校舎、体育館は、耐震

化対策の問題があるため解体し、洞青寮については、平成8年に建設され、建築基準を満たしているため、施設の活用を検討することにしました。

跡地については、保育所の新築と児童館の併設など、子育て支援の拠点づくりとして活用することを提言しています。

洞爺地区振興策検討委員会の発足

洞爺地区振興策検討委員会は、平成24年11月30日、洞爺高校の跡地利用と洞爺地区の地域振興策を考える目的で発足し、委員長に桑原敏さん、副委員長に五十嵐篤雄さんを選出。2年間に21回の会議を開き、町内施設の見学や北広島市、千歳市への視察を行い、論議を深めてきました。

校舎体育館跡地及び洞青寮等の活用

校舎解体後の敷

地約5,000㎡の活用については、子育て支援の拠点づくりとして、「子育て支援センターの機能と一時預かりの機能を持たせた保育所を新築し、小さな子供を持つ母親たちへの子育てサービスの充実を図ること」とあわせて「図書室機能をもたせ、子どもたちが自由に過ごせる児童館の併設」を提言。屋外施設についても「洞爺高校のメモリアル公園として位置づけ、遊具などを整備し、保育所の園庭と兼ねる児童公園として活用していく」ことを明記しています。

さらに「柔道施設を含む軽スポーツ武道館と合宿研修を含めた競技施設を整備」し、駐車場は「必要な施設を配置した後の空き地の効率的な利用」を提言しています。

洞青寮については、スポーツ合宿、社内研修、農業体験宿泊、観光イベントなどに伴う宿泊施設とし、生活体験宿泊、山村留学など定住対策としても活用していくことを求めています。

地域振興策への提言

洞爺地区の地域振興策は、子育て、教育、定住対策を視野に、現状の課題に対し、的確に対応することが重要なことから①これからの農業・観光について②農業研修センターあぐり館・とれたの活用について③温泉の有効活用について④洞爺地区に小中学校のあることの重要性⑤定住の促進について⑥高齢者の生きがいづくりについて⑦郷土資料館の移設についてなど7つの項目について提言しています。

桑原委員長は「将来を見すえた地域振興から、子供や子育て世代を重点化してまとめた」と説明。真屋町長は「しっかりと肉付けして、提言に込めていきたい」と話しました。



真屋町長に報告書を手渡す桑原委員長(右)